ポイントがわかるとスラスラ読める

超かんたん クリーニング業の

読み方 入門 決算書

瀧藤圭一 著

知識ゼロからはじめる

クリーニング業向け会計入門書！

これまでの難しい専門書は不要！

業界事例でよりわかりやすく解説

ポイントがわかるとスラスラ読める

超かんたん クリーニング業の

読み方 決算書 入門

瀧藤 圭一 著

知識ゼロからはじめる

クリーニング業向け会計入門書！

これまでの難しい専門書は不要！

業界事例でよりわかりやすく解説

目　次

はじめに　3

ステップ１　まずは入り口！会計ってなぁに？　6

ステップ２　売上や利益よりも「現金」がより大切　8

ステップ３　あなたの経営の成績表・損益計算書　12

ステップ４　損益計算書最大の壁・減価償却費（1）　21

ステップ５　知らなきゃ損する！消費税の裏話　23

ステップ６　短くするのも一つの手！課税期間の特例　28

ステップ７　決算書の双璧・貸借対照表　29

ステップ８　お金が出ていかない費用・減価償却費（２）　37

ステップ９「経費で落とす」本当の意味　39

ステップ１０　利益の蓄えは個人で？それとも会社で？　42

ステップ１１　現金の動きを把握 キャッシュフロー計算書　46

ステップ１２　青色申告と白色申告の確定申告　48

ステップ１３　青色申告の損益計算書の問題点　50

ステップ１４　売上と支払いが連動しない会計の落とし穴　54

ステップ１５　もうひとつの会計・管理会計　58

ステップ１６　予算策定の事業計画を！５ヵ年事業計画　60

ステップ１７　変動費・固定費・限界利益　62

あとがき　69

はじめに

決算書を読みこなしたい！と思っている人は、多いのではないでしょうか。特に業績が低迷してくると尚更です。そこで本屋に行き何冊かの会計の専門書を手に取ってみる。しかし、内容はチンプンカンプン。何が書いてあるのか、さっぱり分かりません。「入門書」と書いてある本を読んでも、よく分からない。

思い余って、税理士に教えてもらおうと思っても、使われている用語自体も分からず、何を尋ねればいいのかさえ分かりません。

会計が分かるようになりたい。決算書が読めるようになりたい。数字の苦手意識を拭い去りたい。しかし、どんな本を読めばいいのでしょうか？誰に何を教わればいいのでしょうか？

そこで皆さんにお尋ねします。
会計の専門家とは誰でしょうか？

そう、税理士と公認会計士です。

それでは、彼らの主な仕事とは何でしょうか？

実は、決算書を作ること！ではありません。

正確には、まず、会計の専門家である税理士の仕事とは、**「税務会計」に基づき「申告調整」を行い、税務署に「申告書」を提出すること**です。

一方の公認会計士の主な仕事とは、「財務会計」に基づく決算書が、適正かチェックすることです。

ちょっと待って下さい。

「税務会計」、「財務会計」という『会計』が二つも出てきました。

もちろん、税理士も公認会計士も「決算書」を作成します。正確には、お店や会社の活動状況や現状を「報告書」として提出しているのですが。

しかし、この決算書は、「税務会計」と「財務会計」という異なった基準で作るの

で、内容が違っていることもあります。つまり、税理士は、税務当局向けの「報告書」を作り、公認会計は資金提供者である銀行などの金融機関や、株主向けの「報告書」を作っているのです。
　ということは、世の中には「会計」が二種類あり、報告書である「決算書」の内容も異なることになります。

　にわかに信じられないでしょう。

　でも、よく新聞やテレビで、大きな会社、特に一部上場会社で、税務当局の指摘で脱税が見つかり、修正申告をしたというニュースが流れます。ただし、そのほとんどは悪質性が認められず、重加算税までは支払っていません。

　しかし、不思議だと思いませんか？

　公認会計士という「会計」の専門家が付いているのに、脱税ですから。

　会社側のコメントのほとんどは、「税務当局と見解の相違がありました。今は、当局の指示に従い修正申告を済ませ、全額納付いたしました」となっています。

「見解の相違」

　これはどういうことかというと、会社側はこの費用は「経費」として損金処理（費用化）したのに、税務当局が「経費」として認めなかった、ということです。つまり、売上高に占める経費が少なくなるので、その分だけ税金を多く支払わなければならなくなるということです。

　さて、ここまでの話で、ひとつ気になることがあります。
　決算書とは、税務当局や資金提供者（金融機関や株主）向けだけの「報告書」なのでしょうか？
　肝心の会社や店を管理する人たち向けの「報告書」は無いのでしょうか？

　そう、実はもうひとつ「会計」は存在します。

　それは、**「管理会計」**という会計です。

　これは、**会社や店を管理する人たち（経営者等）に、経営管理のための情報を提供するためのもの**です。

ということは、なんと**「会計」は三つもある**ことになります。困ったことに、使われる「用語」も異なっています。いやはや、これは大変です。実際、会計の専門書を色々と読んでみると、この「ことば」自体も入り乱れ、しっかりと統一できていません。これでは、相当「会計」を理解できていなければ迷って当たり前です。

これが「会計」を難しくしていた元凶だったのです。

本書では、皆さんを「会計」の専門家にしようとしているのではありません。**「会計」を理解して、経営管理に役立たせる。**そのためには、まず、「決算書」を読みこなせて、理解できるようになる。これを目的にしています。

決算書を読みこなせるようになると、分析も可能になります。もちろん、数字嫌いも解消です。しかし、本書はまず決算書を理解することに趣をおいています。ですから、分析はまた次の機会にしたいと思います。

どうしても、難しいことばや専門用語が出てきます。その都度解説を加え、できるだけ分かりやすく、そしてできるなら面白く会計を知って頂くようにと書き綴りました。

経営は、「会計」にあり！です。

ステップ１

まずは入り口！会計ってなぁに？

会計とはいったい何でしょうか？

この問いかけに一言で答えるなら、「会計とは、お金の流れを表したもの」となります。

というのは、すべての経済活動は、「お金を用意する」。そしてそのお金を「何かに投資する」。その結果「利益を得る」。その利益でまた「何かに投資する」という、お金でお金を生み出す循環の仕組みだからです。

そこで、質問の答えを少し詳しくいうと、「会計とは、店や会社の**活動状況や現状**を、**固有の記録や計算技術**を用いて**情報化**し、これを**関係者に伝えて利用する活動**」ということになります。

難しいことばが並んでいます。これだけでは、何のことか分かりません。では、詳しく解説しましょう。

まず、**活動状況や現状**を、貨幣価値、つまり、お金の単位を用いてその動きを記録します。しかし、その記録の仕方をそれぞれが好き勝手に記録したり計算したりすると、他の人が見ても意味が通じなくなる可能性が出てきます。これでは困りもの。誰が見ても分かるようにしなければなりません。そこで登場するのが、固有の記録や計算方法です。記録の仕方や計算方法を、誰もが理解できるようにとルールを決めた。これが「仕訳」であり「簿記」と呼ばれるものです。

さて次に**情報化**。これが、これから読みこなす「決算書※1」のことを指します。会社や店の活動状況や現状を、貨幣価値の数字を使い、固有の記録や計算技術を用いて情報化したものが「決算書」ということになります。会社や店の成績表と考えれば、分かりやすいでしょうか。

＝＝

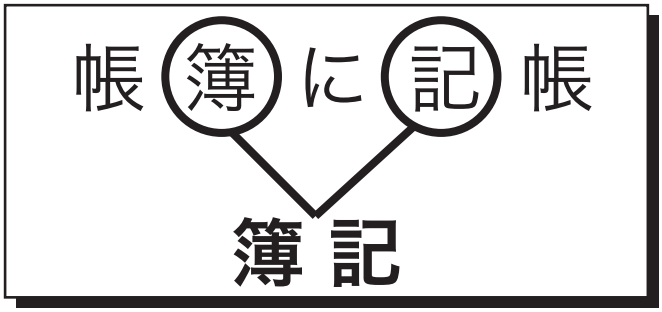
※1　決算書と決算報告書は正確には異なりますが、ここでは財務諸表の内、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書の三表を決算書とすることにします。

＝＝

ちなみに簿記とは、「帳**簿**」に「**記**帳」するので「**簿記**」というのですが、会計を理解するためには、仕訳や簿記を学ばなければならないのでしょうか。

心配ご無用。

決算書を一から作るのならいざ知らず、決算書を読んだり、会計の仕組みを理解したりするために、「仕訳」や「簿記」といった複雑で煩わしい知識は必要ありません。それらは会計の専門家の人たちに任せておけばいいのです。



さらに、「**関係者に伝えて**」とあります。この関係者とは、出資者や銀行などといったお金を用立てる金融機関や、税を徴収する税務当局、もちろん、マネジメントに携わる人たちを指します。

さて最後は「利用」です。「決算書」は一定期間の経営の成績表であり、財政報告書に他なりません。ですから、稼ぎ出した利益を適正に分配する役目を担っています。と同時に、これをどう読み解くか。専門的には財務分析というのですが、そのお店や会社がこれからどんなに成長するか、どれだけ収益を上げられるか、どれほど安定しているか、それらを調べて分析することもできます。

なぜなら、決算書は貨幣価値（お金の単位）で数値化されています。つまり、通常の数字を用いて記録されているので、さまざまな計算式が使えることになる。計算式が使えるならシミュレーションできるということです。この場合はどうなる？こうすれば、どうなる？等々。条件や数値を色々変えて、試してみることができます。

そして大事なことは、「決算書」に登場するお店や会社の損益を表した**損益計算書**、資産や負債を表した**貸借対照表**、現金の流れを表した**キャッシュフロー計算書といった財務諸表は、別々の諸表でありながら実は繋がっている。**それぞれが独立しながら違う角度で、そのお店や会社の内実を伝えている。こうしてみると、いやはや「決算書」はとても素晴らしい諸表ではありませんか。

以上のことをまとめると、

会計とは、お店や会社の経済活動の様子や状況を、仕訳や簿記のルールに従い、

つづきは書籍をお買い求めください
何卒、よろしくお願いいたします。

書籍のご注文は

（１）お取引の機械・資材商さまへ直接ご注文（代金後払い）

→　代金は各商社様からご請求申し上げます。

（２）オンラインショッピング（代金先払い・クレジットカード決済）

→　雑誌のオンライン書店 Fujisan.co.jp からネット注文
http://www.fujisan.co.jp/pub/4255/

（３）ゼンドラへ直接注文（代金引き換え）

→　TEL０３・６８２１・６６１１
FAX０３・５９７６・１３３０

みなさまのお買い上げ　心よりお待ち申し上げます

定価：本体 3000 円 ＋税

ゼンドラ株式会社

知らなきゃ損する！消費税の裏話
「経費で落とす」本当の意味
利益の蓄えは個人で？それとも会社で？

経営は会計にあり
必達！決算書の読める経営者に